

平成 23 年度通常（第 1 回）理事会議事録

日 時： 平成 23 年 5 月 21 日（土） 11：00～16：00

場 所： 岸記念体育会館 5 階 504 会議室

出席理事：（敬称略、順不同）

河野博文、秋山雄治、西岡一正、植松眞、森山雄一、前田彰一、児玉萬平、鈴木修、齋藤涉、鈴木國央（委任：山田敏雄）、小山泰彦、山田州子、松原宏之、山田敏雄、中澤信夫、庄司一夫、木立正博、平井昭光、柴沼克己（委任：河野博文）、坂谷定生（委任：児玉萬平）、山下記誉、守本孝造、山本嘉一、齋藤修、中村公俊、吉留容子、剝岩政次

以上 27 名、内委任状 3 名

出席監事：浪川宏、栗原博、中村隆夫

以上 3 名

オブザーバー：末木創造国体委員長、戸張房子国際委員長、山川雅之医事・科学委員長、斉藤威普及委員長、鈴木保夫外洋総務委員長、大坪明外洋安全委員長、前園昇ルール委員会副委員長、古屋勇人高体連ヨット専門部、豊崎謙広報委員

議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 27 名、出席者 27 名（内、委任状 3 名）により、寄附行為第 29 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

寄附行為第 28 条に基づいて、河野博文会長が議長となり、平成 23 年度通常（第 1 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を前田彰一専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、平井昭光、山下記誉の両理事が任命された。

河野会長から、最初の評議員選任方法、東北地方大震災支援金活動、ISAF ミッドイヤーミーティング報告等、理事会に提出された重要案件につき、審議をお願いしたいとの挨拶があった。

< 審議事項 >

1) 平成 22 年度事業報告（案）

前田専務理事から資料に基づき、平成 22 年度事業報告（案）について説明があった。東日本大震災でお亡くなりになった方々に衷心よりご冥福をお祈りいたします。また、被災された地域の皆様に心よりお見舞い申し上げます。平成 22 年度事業の全般について、東日本大震災の支援は、3 月 11 日東北地方太平洋沖地震直後の JSAF 評議員会におい

て「今後の復興も含め、JSAFとして最大限の協力と支援をする」との決議が満場一致で採択された。JSAFでも支援プロジェクトを立ち上げ復旧、復興に向けた各種取り組みを検討している。組織全般は、平成21年度から公益法人移行検討プロジェクトを発足させ、精力的に移行に関する問題に取り組んできた。評議員会でのアンケート、定款案、新公益法人における評議員定数など、理事会や評議員会で討議してきた。1月秋田名誉会長がご逝去された。ニッポンセーリングレーシング葉山、日本学生外洋帆走連盟、日本IRCオーナーズ協会が特別加盟団体として加盟した。普及事業は、ユース艇種選定問題について理事会で議論された。オリンピック特別委員会およびジュニアユース育成強化委員会より一貫指導方針の発表があり、国体でのアンケート調査を実施した。指導者委員会の講師研修会でJSAFゴールドプランの見直しなど活発な議論が行われた。昨年に引き続き、ジュニアセーリングシーマンシップアカデミー事業を全国14カ所で実施した。また、日本財団助成事業として、セーリング体験教室やファミリーレースが各々5カ所で開催された。強化事業は、第16回アジア競技大会で、金メダル3個、銀1個を獲得した。またレーザーラジアルユース女子選手権大会2位の土居愛実選手が、読売スポーツ賞を受賞した。文科省のマルチサポート対象競技として470級が承認された。外洋関連は、10年ぶりに沖縄レースが復活、12艇が沖縄-東海レースに参加した。7月第51回パールレース、8月ジャパンカップ2010が開催された。また、中国の青島市長杯で日本派遣チームが優勝した。IRC計測が飛躍的に伸び、国際的にみるとIRC証書取得数8番目となった。その他として、JSAFホームページにWeb J-Sailingを立ち上げ、J-Sailingではカバーしきれない各種情報を提供していた。昨年度に引き続き環境キャンペーンの一環として実施した「全国少年少女海の絵画コンテスト」は500点を超える応募があった。RRS附属文書Qを邦訳とWebで公開した。また、ISAFより新たに1名のIJ(国際ジャッジ)が認定された。JOC女性スポーツフォーラムが開催され、レディース委員会から倭理事、吉留理事および重JOCジュニアコーチが参加した。千葉国体では、見えるセーリング競技として、レース会場の堤防に多くの観客を集めた。日体協から、国体参加資格違反問題について、第三者委員会による答申書と注意勧告書が提出された。インターナショナルボートショーで、ヨットとマラソンで世界一周した間寛平氏に功労賞が授与された。B&G財団ウォーターセイフティニッポン(水の事故ゼロ運動)協議会に発起人の一員としてJSAFが参加したとの発言があった。

一部文言を修正して、承認された。

2)平成22年度決算報告(案)

斎藤理事から資料に基づき、平成22年度決算報告(案)について説明があった。

一般会計については、本年度収支は予定通り順調に推移した。一部委員会等において、震災の影響により事業規模が予定より縮小したところもあり、収支バランスにおいては全体としてやや縮小均衡気味に着地した。

1) 事業活動収入は、2次補正予算比 9,637 千円減の 150,644 千円となった。メンバー会費収入、賛助会費収入などがやや予算を下回り、大会講習会収入、業務用品販売収入などが予算比減少したが、支出の減少も伴って赤字をもたらすものではなかった。

2) 事業活動支出は、2次補正予算比 14,139 千円減の 140,764 千円となった。大会講習会支出、業務用品仕入支出などが予算比減少した他、会議費、旅費交通費なども支出減となった。

3) 投資活動収支においては、従来通り退職給与積立支出 743 千円などを計上した。

4) 予備費(2次補正予算 3,000 千円)については、支出が発生しなかった。

5) この結果、当期収支差額は 2,162 千円の黒字となり、前期繰越額 25,400 千円を加えて次期繰越収支差額は 27,563 千円となった。

2次補正予算比で差異がある事業は、大会講習会参加料収入および大会講習会開催支出については、震災の影響で予定していた講習が一部実施できなかったことなどから、収支ともに減少した。大会講習会参加料収入予算 4,805 千円に対し、決算 1,396 千円で差異 3,408 千円の収入減となった。大会講習会開催支出予算 23,280 千円に対し、決算 17,730 千円で差異 5,549 千円の支出減となった。業務用品販売事業収入および業務用品仕入支出については、本年度は在庫の整理に力を入れたこともあり、収支ともに減少した。業務用品販売事業収入予算 4,000 千円に対し、決算 1,427 千円で差異 2,572 千円の収入減となった。業務用品仕入支出予算 3,000 千円に対し、決算 833 千円で差異 2,166 千円の支出減となった。団体補助費支出 1,175 千円については、ジャパンカップ補助金等を予算で大会講習会開催支出に計上していたものを、会計士の指摘により振り替えた。震災義捐金は、3月末時点での募金残高 7,382 千円を義捐金預り金として計上した。

オリンピック特別会計は、事業活動収入は2次補正予算比 10,590 千円減の 177,718 千円となった。震災の影響で、3月実施予定だったコース育成強化合宿、JSAF コース選考会、オーストラリアのコーチ招聘、ドーピング検査などが中止となり、補助金等収入(JOC 委託金収入およびスポーツ振興基金助成金収入等)が減少した。事業活動支出は、2次補正予算比 13,446 千円減の 182,708 千円となった。上記の事業の中止に伴い、支出も減少した。この結果、当期収支差額は 4,990 千円の赤字となり、前期繰越額の 43,445 千円を加えて次期繰越収支差額は 38,455 千円となった。この黒字は、従来通りロンドンオリンピックの拠点費用や強化費用に充当する。

免税募金特別会計は、事業活動収入および事業活動支出 2次補正予算比 1,194 千円増の 35,404 千円となった。なお、免税募金収入は一般会計、オリンピック特別会計、環境特別会計に繰入支出され、収支差額は 0 円となる。環境特別会計は、事業活動収入 2次補正予算比 505 千円減の 3,250 千円となった。事業活動支出は 2次補正予算比 1,617 千円増の 4,717 千円となった。この結果、当期収支差額は 1,467 千円の赤字となり、前期繰越収支差額 2,907 千円を加算した次期繰越収支差額は 1,440 千円となったとの発言があった。

また、平成 22 年度協賛金等明細（ロンドンオリンピック選手強化の免税寄付金及び広告協賛、環境キャンペーン協賛、外洋レース協賛、賛助会費）について報告があった。

浪川監事から、平成 22 年決算書監査報告があった。

柴沼理事から、一般会計正味財産増減計算書における科目名称「…収益」と収支計算書における科目名「…収入」が一致していないことは会計基準で問題ないかとの質問があり、斎藤理事から、正味財産増減計算書と収支計算書の科目が異なっている問題はないとの返答があった。

承認された。

3) 平成 23 年度第 1 次補正予算（案）

斎藤理事から資料に基づき、平成 23 年度第 1 次補正予算(案)について説明があった。

一般会計について、主に以下の 2 点の変更により、1 次補正予算を策定する。震災対応と補助事業等の認定結果等を反映し、1 次補正予算案を策定した。結果的に緊縮予算となり、予備費を 2,000 千円から 1,000 千円に減額し当期収支差額 0 円とした。震災対応では各委員会に支出抑制のお願いをして、一部予算減額計上した。被災者のメンバー登録の更新は無料とするため、加盟団体負担金収入（メンバー年会費収入）を 2,500 千円減の 52,500 千円とした。日本財団助成事業のジュニアアカデミー事業が採択されなかったため、一般会計予算から削除したが、toto 助成金が認められたため、オリンピック特別会計内の事業とした。モバイル事業は本年度で最後となり、当初予算収支ともに 5 月までの 2 ヶ月を計上したが、4 月までの 1 ヶ月で終了することとした。

オリンピック特別会計は、H23 年度の JOC 等の補助金等が承認されたため、1 次補正予算を策定する。ナショナルコーチ関連事業が本年度から JOC の直接所属となったため、収支とも削除した。スポ振重点強化助成金が 3,500 千円減額認定となったため、収支ともに変更計上した。これら結果、事業活動収入 181,306 千円、事業活動支出 171,376 及び投資活動支出 2,500 千円、当期収支差額 7,430 千円（当初予算比 5,650 千円）を計上した。なお、免税募金特別会計および環境特別会計は、当初予算と変更なしとしたとの発言があった。

承認された。

4) 評議員変更について

前田専務から資料に基づき、評議員変更について説明があった。長野県セーリング連盟評議員の横山真氏から小山利男氏に変更したいとの発言があった。

承認された。

5) 最初の評議員選任方法

庄司理事から資料に基づき、財団法人日本セーリング連盟における最初の評議員選任

方法(案)ならびに最初の評議員選任委員会委員の選任について説明があった。

専務理事より、常任委員会で検討した結果、杉山嘉尚評議員、浪川宏監事、武村洋一事務局員、高木伸学外部委員、元山登雄外部委員の合計 5 名を最初の評議員選定委員会委員として推薦するとの提案があった。また、本理事会の議事録を添付して所轄官庁に提出するとの発言があった。

柴沼理事から、評議員選定委員会委員の資格について意見書が提出され、議論されたが提案通りで問題はないとの結論となった。

承認された。

6) 日本体育協会・日本オリンピック委員会創立 100 周年記念事業寄付金

前田専務から資料に基づき、日本体育協会・日本オリンピック委員会創立 100 周年記念事業実施に伴う支援について説明があった。

日本体育協会と日本オリンピック委員会は、平成 23 年 7 月に創立 100 周年を迎えるにあたって、寄付金 1 口 5 万円を 6 口以上との協力依頼があり、JSAF として 30 万円寄付をする。なお、7 月 15 日に記念事業の一環として総括シンポジウムが開催される。翌 7 月 16 日には祝賀式典があるとの発言があった。

承認された。

< 協議事項 >

1) 東北地方太平洋沖大地震の震災復興支援について

前田専務理事から資料に基づき、東北震災復興支援対応について提案があった。

東日本大震災の復興支援について、プロジェクトチームおよび支援対応の現状について説明があった。支援募金は、個人・団体からの支援金額は 13,316,196 円(5 月 18 日現在)となった。5 月末日集計し、一部を JSAF に残した上で、東北セーリング連盟にお渡しする。支援募金の募集期間を平成 24 年 3 月末日まで延長する。被災団体(岩手県・宮城県・福島県・外洋いわき・石巻ヨットクラブ)のメンバーは自動更新とする。千葉県、茨城県の被災者も対象とする。ガンバレ東日本フラッグ・ステッカーキャンペーンの販売を事業開発委員会で取りまとめる。テンダーや中古艇の提供をする。水域外練習の提供や各種大会予選会・本大会への対応をする。J-SAILING やホームページで被災状況報告をしているとの発言があった。

鈴木常務理事から資料に基づき、東北ボランティア宮古訪問及び東北ヨット代表者会議について報告があった。5 月 14~15 日、岩手県宮古で関東の学生とともにがれきの撤去と清掃および盛岡の東北ヨット代表者会議に出席して、JSAF の支援活動の取り組みを説明した。問題点として、東北インターハイの FJ チャーター艇確保、高校生の練習艇や活動場所の確保および備品等の購入、岩手県への集中支援などが挙げられるとの発言が

あった。

庄司理事から資料に基づき、東北水域の復興に向けて(第2報)について報告があった。東北水域の被災県における艇損失状況は、ディンギー・クルーザー・救助艇など全体の約85%が失われた。JSAF、県連、艇種別協会、学連、高校、ジュニアなど全国からの支援をいただいた。支援募金の利用の考え方は、JSAF震災復興支援プロジェクトと相談して決定する。復興への取り組みや用途は、専用ホームページで情報を提供するとの発言があった。

高体連ヨット専門部の古屋副部長から、高体連の取り組みまたインターハイの会場変更について説明があった。

柴沼理事から、震災復興支援活動関連の特別委員会設置について、委員会名・目的と理由・委員会構成等について提案書が出された。

前田専務理事から、配布資料にあるように森山副会長をヘッドして、専務・常務・東北水域推薦の庄司理事、財政委員長斎藤理事、事業委員長松原理事、佐川氏のほかオブザーバーに関東学連や高体連も参加する復興支援プロジェクトチームで、被災地と連絡を取りながら復興支援について検討するとの発言があった。

木立理事から、外洋東関東への配慮も要望するとの発言があった。

森山副会長から、支援金を公平配分することは困難である。将来を見据えた支援になることを期待したいとの発言があった。

河野会長から、常任委員会でも議論をしている。ハーバー近隣の漁港などへの支援も必要ではないかとの発言があった。

2) 公益法人移行申請の今後のスケジュールについて

庄司理事から資料に基づき、公益法人移行申請について規程等見直しと今後のスケジュールについて提案があった。

JSAF公益法人移行申請スケジュールにおいて、6月評議員会で評議員選定委員会設置や主務官庁への申請について報告する。その後、新たな評議員候補推薦を開始することになる。また、公益法人移行に伴うJSAF規程・規則等の修正への対応について、関係委員会に既存の規程等に関する修正作業依頼をするとの発言があった。

3) 理事会のあり方

前田専務理事から、理事会の在り方について提案があった。

柴沼理事から、理事会の議長について寄付行為通り理事会の議長は会長が務めること、会長が第三者に議長を委任するのであれば、副会長へ委ねるべきである。会議運営ガイダンスについて、会議運営等については会議運営ガイダンスに沿って行われることを確認していただきたいとの質問書が提出された。

河野会長から、以前も同じ質問があったが、議長と議事進行を区別することは寄付行

為違反ではないと考える。議事進行に熟知した現在の専務理事が進行することで問題ないとの発言があった。

庄司理事から、公益財団法人定款上で記載することとしたとの発言があった。なお、会議運営ガイダンスは、4月理事会で配布された規則集に入っている。

新たに選任された理事・監事から、自己紹介や今後の抱負について話が出た。JSAFが多方面にわたる活動を実施、シームレスな活動、現場が大切、中央と地方との窓口活動、高齢化問題、会員減少を食い止める取り組みなど、いろいろな意見が出された。

4) ユース艇種制定の検討

西岡副会長から、ユース艇種制定の検討について提案があった。

3月評議員会で提出したユース艇種の提言を実行するには、高体連、国体委員会を始めとして都道府県連の理解が求められる。ユース艇種選定に関するプロジェクトは、経済的な問題も含めて具体的な体制作りが必要である。また、森山副会長に検討依頼をしたとの発言があった。

山本理事から、和歌山県はナショナルトレーニング認定以前から海洋スポーツに力を入れていて、国際大会や全国大会の開催し、セーリングに理解を示していただいている。平成27年和歌山国体に向けて、施設や国体艇種問題について議論を開始しているので、協力できるとの発言があった。

西岡副会長から、J-SAILING等で内容を掲載するので、水域単位で質問・意見を提出していただき、体制作りには協力と理解を求めたいとの発言があった。

< 報告事項 >

1) 会計事務所の変更

斎藤財政委員長から、顧問会計士の変更について報告があった。現在、連盟会計の月次指導及び税務関係の顧問会計士から辞退の連絡を受けて、会計事務所変更を検討中との発言があった。

2) ルール委員会報告

前園ルール副委員長から資料に基づき、平成23年度IJ/IU候補推薦委員会の構成およびJSAF規程6英訳についての報告があった。平成23年度IJ/IU候補推薦委員会の構成について、「IJ/IUの推薦候補選定等に関する基準」に従い、ルール委員会の承認を経て委員を決定した。JSAF規程6(平成23年4月9日改定)の英訳について、日本語の文言修正に併せて英訳文も一部修正して、JSAFホームページに公示およびISAFへ報告したとの発言があった。

3) レース委員会報告

松原レース委員から資料に基づき、平成 23 年度 JSAF 共同主催・公認・後援について報告があった。1 大会共同主催、2 大会後援、1 大会公認した。3 大会公認については調整中との発言があった。

4) ワンデザインクラス計測委員会報告

末木前 ODC 計測委員長から資料に基づき、平成 23・24 年度 IM 候補者推薦委員会の構成について報告があった。平成 23・24 年度 IM 候補者推薦委員会の構成について、「ISAF インターナショナル・メジャラー(IM) 候補者の推薦基準」に従い、ODC 計測委員会の承認を経て委員を決定したとの発言があった。

5) 国際委員会報告

戸張国際委員長から資料に基づき、2011 年 ISAF ミッドイヤーミーティングについて報告があった。5 月 4～7 日、ロシア・サンクトペテルブルグで開催された 2011 年 ISAF ミッドイヤーミーティングでの争点である 2016 年オリンピック大会種目の決議について、会議初日から決定まで時系列な説明があった。7 サブミッションから第 1 回の書面投票の結果、日本案(470 男女、キールボートなし)が過半数をとり、2016 年オリンピック大会種目が決定した。また、カウンスル会議終了前、河野会長から東日本大震災に対する各国から受けたお見舞いの御礼と報告があったとの発言があった。

河野会長から、今回のミッドイヤーミーティングでは 470 級男女が残せたこと、ならびにそこまでのプロセスに大きな意義があった。国際 470 協会及びアジア諸国とも密接に連携と取れたこと、JISS セーリング関係者から説得力のあるデータを開示できたことなど国際連携ができたのは初めてのケースであったとの発言があった。

6) 普及委員会報告

斎藤普及委員長から資料に基づき、日本財団助成事業の報告があった。平成 23 年度日本財団助成事業(ファミリーレース・セーリング体験教室、教職員セーリング指導者養成講習会)について実施団体ならびに視察員を決定した。5 月 11 日、日本財団担当者と JSAF 普及事業に対する考え方と取り組みの理解を深めるとともに、助成事業の経緯を説明し、今後の方針について提案した。これからの普及委員会の取り組みと体制について、3D 作戦(誰でも、どこでも、どれでも)を展開し、幅広い人材による活動をいっていくとの発言があった。

7) 国体委員会報告

末木国体委員長から資料に基づき、第 66 回国民体育大会山口大会における中央派遣役員レース委員会推薦者・プロテスト委員会推薦者および第 67 回国民体育大会岐阜リハーサル大会における中央派遣役員レース委員会推薦者・プロテスト委員会推薦者について

国体委員会報告があった。平成 23 年度岐阜国体リハーサル大会・平成 24 年岐阜国体から国民体育大会セーリング競技中央競技役員数が 12%減となる。また、佐々木ジュニア・ユース育成強化委員長を国体委員会副委員長として国体艇種問題に取り組んでいきたいとの発言があった。

8) 事業開発委員会報告

松原事業開発委員長から資料に基づき、「ガンバレ東日本フラッグ・ステッカーキャンペーン」の応募状況について報告があった。協力団体及び個人から 580 セット・3,496,000 円（5 月 20 日現在）の応募があったとの発言があった。

9) オリンピック特別委員会報告

山田オリンピック特別委員会委員長から資料に基づき、オリンピック特別委員会およびジュニア・ユース育成強化委員会の報告があった。ナショナルチーム海外遠征は、プリンセスソフィアレガッタ、イエールオリンピックウィークが終了、今後はプレオリンピック等に参加し、12 月オーストラリア・パース開催の ISAF ワールドに参加、全種目オリンピック参加国枠を獲得する目標に挑戦する。次世代を担う選手の海外派遣は、ISAF ユースワールド、第 26 回ユニバシールド、470 級ジュニアワールドおよびスナイプジュニアワールド日本代表選考会の選手・役員派遣を決定した。また、レーザーラジアルユースおよびレーザー4.7 代表選手選考ならびにレーザー4.7 級ワールドの選手・役員派遣を決定した。東日本大震災義援金活動を、海外主要大会（スキャンディア選手権、プレオリンピック、ISAF ユースワールドおよび ISAF ワールド）において、「ガンバレ東日本フラッグ・ステッカーキャンペーン」の義援金活動を展開するとの発言があった。

10) 外洋計測委員会報告

児玉常務理事から資料に基づき、IRC 登録申請推移について報告があった。平成 23 年度 IRC 証書発行数（4 月末現在）は 196 艇であるとの発言があった。

11) ジュニアアカデミー委員会報告

中村ジュニアアカデミー委員長から、ジュニアセーリング・シーマンシップアカデミーの助成について報告があった。平成 23 年度事業は日本財団助成を受けられず、スポーツ振興くじ（toto）助成事業として継続することが決定した。全国 13 カ所で開催予定、参加募集要項を配布するとの発言があった。

12) 平成 23 年度 5 月 13 日付けメンバー登録数について

前田専務理事から資料に基づき、平成 23 年度メンバー登録数について報告があった。総合計 4,391 名との発言があった。

13) 平成 23 年度臨時第 1 回理事会議事録(案)

前田専務理事から資料に基づき、平成 23 年度臨時第 1 回理事会議事録(案)について報告があった。

14) その他

前田専務理事から、沖縄県セーリング連盟会長・理事長の交代について報告があった。会長に柳生徹夫氏、理事長に有銘兼一氏が就任したとの発言があった。

前田専務理事から、本理事会終了後、「山崎達光名誉会長の感謝の会」が銀座・交詢社で開催されるとの案内があった。

前田専務理事から、平成 23 年度第 1 回評議員会は 6 月 18 日(土)に岸記念体育館で開催するとの発言があった。

山川医事・科学委員長から、委員会委員を各水域に依頼するので推薦いただきたいとの発言があった。

中澤キールポート強化委員長から、5 月 27 日に第 1 回キールポート強化委員会を開催する。学生から社会人までセーリングできる環境を整備するため、ご意見をいただきたいとの発言があった。

児玉常務理事から、被災県で損傷した外洋艇の JCI 登録抹消については、戸田 JSAF 顧問にご相談いただきたいとの案内があった。

新理事、新委員長から、新任の挨拶と JSAF への抱負があった。

平成 23 年度通常(第 1 回)理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名捺印する。

平成 23 年 5 月 21 日

議 長 会 長 河 野 博 文

議事録署名人 理 事 平 井 昭 光

議事録署名人 理 事 山 下 記 誉